

平成20年度理研BRC リソース検討委員会の評価と助言・提言について
情報検討委員会

1. 過去3年間(2006-2008年度)の実績(整備事業、開発事業、国際交流、広報、人材育成等)について

● 評価

➤ **概ね期待以上の実績を挙げている。**

特記及び留意事項

- 多種多様なデータに十分なデータベース化ができ、BRC リソースの普及に必要な不可欠なものになっていると思う。
- 特にユーザーの利便性(オーダー支援システム、オンライン帳票作成システム開発による注文のしやすさの改善等)をよく考え追求しているのはすばらしい。
- 新規リソースの開発、社会へのアピール、国際交流、人材育成も積極的に行っている。
- 限られた人員で実績を上げている。

● 助言・提言

- SABRE やパスウェイ表示のような利便性向上は素晴らしい。さらなる強化が望まれる。
- リソース情報の Daily update を検討されてはどうか。
- 運用マニュアルの管理の強化をされてはどうか。
- 作成したものはなくなることはないはず。維持、管理が楽になるようにシステムを見直す必要がある。
- データ保存用にペタサイズのハードディスクの確保が重要である。
- BRC の利用に関し、大学等へもう少し何らかの利用促進のアイデアが必要。
- 情報がなければリソースは利用できないので、リソース増大に併せて情報系人員も増やすべき。
- 折角、OJT により育成された人材(SE、派遣職員)が企業に帰ってしまうことで BRC の人的資産になっていないおそれがある。安定的雇用確保を図る必要がある。
- 会社に帰る人を教育しても仕方がない。業務委託の方法について見なおしたらどうか。会社としてできる人材を提供してもらった方が楽になるのではないか。
- 人材育成に関して、筑波大学での室長の講義を受けた学生がスタッフとして現在加わっている。地道な努力を続け、バイオリソースに興味をもつ若い人の育成が実現できれば良いと思う。

2. 過去3年間(2005-2007年度)の指摘事項への対応について

● 評価

真摯に対応し、事業をさらに発展させた。

特記及び留意事項

- DB 事業の内容は大きく広がりを見せた。

● 助言・提言

- SABRE 等の独自の構築システムにさらに輝きをかけていただきたい。
- BRC のブランド力を高めるためにも、リソース情報のよりユニークな利用法の開発が必要。

- 情報の流失がないよう、セキュリティの問題については慎重の上にも慎重を期すべき。
- 検索ウィンドウ一つで探索できるのは、内容を知っている人だけなので、Web カタログ等を充実していただきたい。
- 検索システムへの新しいアルゴリズムの利用に期待したい。
- 次期システムの設計検討に取り組んでいただきたい(ダウンサイジング、アプリケーション活用など)。また予備設計を行う必要がある。
- システムに関しては外部コンサルしてもらおうべき。現時点で破綻しているとすればやり方を変えるべきではないか。
- DB そのものの改善を進めるためには、委託や外注によるリファクタリングを行うという手もある。コストはかかるが、必要性に応じ検討されたい。
- 人件費抑制のために、外部 SE を雇用するのは見た目の人件費は圧縮できるが、実はコストが高い。「月 100～200 万」くらいはかかっている筈。直接雇用の方が安価であることを明確に主張した方が良い。
- DB 維持・更新において情報量が増加するにつれて、ハードよりも人的コストの負担が大変になるので、この点の解決を図る必要がある(スタッフの増加、充実)。

3. 今後 2-3 年の間に喫緊に整備すべきリソースについて

● 助言・提言

- データベースの運用の持続性は大変重要なことだと思う。また、今後リソースが増えていくことが予想されるのでより安定な運用をめざして、バイオリソースセンターとしての問題として解決に向かっていただきたい。
- データベースの分散化、データ分割化は急務であり、外部にリスト開発の委託ができないかを検討すべき。また手直しする時間も人もいないのは問題であり、BRC 全体で対応すべき問題である。
- データセンターを利用した運用はできないか。
- 運用が破綻するのは間近だと思われ、BRC として、設備、空調、PC の手当が必要。
- 理研 BRC だけでは解決できないが、「多くがヒト疾患モデルとして使われるマウス等の DB」とヒト(臨床)画像・疾患データベースとの高度な関連付けが望まれる。
- 新型シーケンサー等から産出されるデータの処理も含めて、より大きく考えていただきたい。
- 提案の課題は直近 1 年くらいで行なうべきものである。2～3 年先の中期的構想を示すべきである。

4. その他

● 助言・提言

- より多くの研究者にリソース情報の有用性がより広く認識されるようになることを期待したい。
- 実力的には世界でトップクラスであり、特にリソース情報発信はこれから最重要視すべき。広報が不足か?
- バイオリソースの情報は核心中の核心。DB が不安定となりそうな状況は早急に解消する

必要がある。少なくとも、理研全体でその危機的状況を理解し、人員、費用を情報に重点的に回すようにすべきだと考える。

- 年度単位ではなく数年単位での予算獲得を検討する必要がある。
- マウスを中心に世界が必要なデータを管理しており、世界的規模での予算獲得を考えてはどうか。
- 世界にインパクトを与えるような海外のセンターとの比較が必要。
- 上位レベルのマニュアルがないということ。マニュアル化は難しい。特定の人に仕事が集中しないようにし、複数人で対応するなどを考えたらどうか。
- PC を用いるオリジナルシステムではなく外部に委託できるようにすべき。
- 理研統合 DB、MEXT 統合 DB、省庁連携統合 DB の 3 つの段階がある。それぞれとの関係を考え、BRC 情報の発展のため活用して欲しい。
- ステークホルダー(利害関係者)によって対応が異なると思われ、第二期中期計画の三本柱のうち、「社会によく知ってもらう＝重要性の認識をもってもらう」、「ブランド力」に関して、よりきめこまやかな対応が必要。

以上